

第1回運営委員会＜議事録＞

日時：2021年7月1日(木)10:00～12:30

場所：猿投台交流館 研修室

出席：西クレオニセ、ヒガシ・リカ、山家ヤスエ、藤本真理、吉田絵里菜、堀永乃、鈴木崇夫、村山グスタボ秀夫、丸山宗祐、土井佳彦（計10名）

議題

1. 自己紹介
2. 事業説明
3. 意見交換

1. 自己紹介

省略

2. 事業説明

別紙資料をもとに、事業全体の目的や運営委員の役割、5つの取組について説明

3. 質疑応答・意見交換

【取組1】日本語コミュニケーションカチャレンジアップコース「SONHO プロジェクト」について

- 「キャリア＝進路・進学・就職」ではなく、日常生活も含めた「人生そのもの」と捉えて、それに必要な日本語力を身につけるプログラムと考えていく。
- 子どもの中には、生活の中で日本語を使う必要性を感じていなかったり、日本語を使うことに心理的な抵抗を感じたり、自信が持てなかったりする子もいるので、短期的な日本語力向上を目指すのではなく、日本語を使うこと自体への抵抗感が減り、モチベーションや自信を高めていくような関わり方をする。
- 本プロジェクト以外の日本語教育の時間や、日本語教育以外の学習時間において、実際に働いている人の話を聞いたり、豊田市の地理や歴史についても学べたりするような機会がもてるとよい。
- エスコラ・ネクターにおいては、ブラジル政府による認可を受けるためのカリキュラムに加えて、独自に日本語教育の時間を設けているため、それに

よって認可対象外となってしまうたりする心配はない(ブラジル政府からは、週に1時間日本語教育を行うように言われている程度で、その内容等についての指示等はない)。

- ネクター在籍者以外(不就学・不登校含む)の日本語学習希望者への声かけは大切。学び直しのきっかけの一つになるとよい。

【取組2】日本語コミュニケーションカチャレンジアップ教材及びカリキュラム等開発について

- 担当するスタッフは、教材やカリキュラム作成のノウハウが十分とは言えないため、運営委員をはじめ専門知識や経験のある人のサポートが必要。
- これまで、日本の公立学校における外国人児童生徒等の日本語教育や、海外の日系人学校における日本語教育については長年の蓄積があり、様々な教材やカリキュラムが残されているが、日本のブラジル人学校における日本語教育に特化した教材やカリキュラム、研究成果などはほとんど見られないので、類似のものを参考にしながらも、本プロジェクトで独自のものを開発していくしかない。
- 今年度はあくまでモデル的に30時間(20コマ)分のカリキュラムを考えるが、次年度以降に向けて、レベル別や学年別など中長期的なカリキュラム等も検討していく必要がある。

参考1. 三重県「外国人の子どもに向けたキャリアガイド」

<https://www.pref.mie.lg.jp/TABUNKA/HP/49135032696.htm>

参考2. 文化庁「つながるひろがる にほんごでのくらし」

<https://tsunagarujp.bunka.go.jp/>

参考3. 浜松国際交流協会「企業内日本語教室カリキュラム開発報告書」(2009)
及び「外国にルーツを持つ青少年のキャリア支援事業報告書」(2017)

<http://www.hi-hice.jp/publish/bulletin.html>

参考4. 豊橋市立豊橋高等学校「外国人生徒キャリア教育事業」

http://www.highschool.toyohashi.ed.jp/y_gaisyu24.html

【取組3】 ブラジル学校における日本語教育の充実を考えるシンポジウムについて

- 在名古屋ブラジル総領事館を通じて、ブラジル本国政府に対し、日本のブラジル人学校における日本語教育の重要性等と、それに対するブラジル政府等からの支援の必要性を伝えてもらえるとよい。
- ブラジルの教育関係の法律で、海外での教育については経済的な支援ができないようになっているということを聞いたことがあるので、一度調べてみる必要がある。
- エスコラ・ネクターに限らず、他校・他県でも有意義な取組があれば少し紹介してもよい (ex.静岡県)。

【取組4】 ブラジル学校における日本語指導者研修について

- 学校によっては、日本語が不自由なブラジル人学校スタッフと、ポルトガル語が不自由な日本人日本語教師との間で、十分なコミュニケーションがとれないまま日本語教育が行われている。
- 日本語教師は教員養成課程において、子ども向け日本語教育を勉強することはほとんどなく、ましてやブラジル人学校における教育についてはまったく勉強しないので、日本語学校での留学生向け教育（日本語能力試験対策）をそのままブラジル人学校でやっているだけのケースが少なくない。
- ブラジル人スタッフが日本語教育を担当している場合、日本語教師養成課程を修了した人はほとんどいないので、専門的な日本語教育にはなっていないと思われる。
- 取組5の実態調査において、現在、ブラジル人学校で日本語教育を担当している人たちが、どのようなことで困っているのか、どのようなことを学びたいと思っているのかを把握し、研修内容に組み込んでいく。

【取組5】 ブラジル学校における日本語教育実態調査について

- 既存の調査としては、愛知県が毎年ブラジル人学校を対象に行っている調査があるが、そこでは1週間あたりの日本語教育時間数ぐらいしか把握されていないため、より詳しい調査を行う必要がある。
- 調査項目は事前に事務局等で素案をつくり、メールで運営委員に確認のうえ、加筆修正を行って完成版とする（調査はポルトガル語で実施）。

その他

- 本プロジェクトを含め、ブラジル人学校について日本人社会での認知度を高めていくことも重要。動画を撮影し、一般に見てもらえるようにしたい。
- 様々な機会を通じて、ブラジル人学校のPRをしていくことが大切。
- ブラジル人学校を卒業し、社会で活躍している人たちを動画やウェブサイト等で紹介していくのもよい。
- 保護者に対して、日本社会でのキャリアを考える機会を提供することも重要。特に卒業後家庭の事情はあると思うが安易に派遣会社への就労を進めるのではなく、子どもにも選択肢が与えられるようなサポートができるように。
- 子どもにも選択肢が与えられるようなサポートができるように
- 次年度以降、外国人雇用企業と連携し、会社見学や職業紹介の機会を設けるなども検討していくとよい。
- 将来的には、ブラジルと同じ教育内容を行うだけでなく、ポルトガル語でブラジルと日本両方の歴史を学ぶ等、日本で暮らすブラジル人に特化したカリキュラムを考えていかなければならないだろう。

参考5. YouTube チャンネル「dia a dia」

<https://www.youtube.com/c/diaadiajp/videos>

参考6. 多文化共生リソースセンター東海「たぶんか便り」照屋エイジ

(日本語) <https://mrct.publishers.fm/article/17511/>

(ポルトガル語) <https://mrct.publishers.fm/article/18042/>

参考7. (公財)パブリックリソース財団「女性リーダー表彰「第4回チャンピオン・オブ・チェンジ日本大賞」が決定！」

<https://prt-times.jp/main/html/rd/p/000000001.000071273.html>

参考8: NPO おたがいさま会議「今、ブラジル人学校で起きていること～エスコーラ・ネクターの取り組み～」(2020年11月17日)

<https://otagaisama-aichi.xxxx.jp/post-560/>

令和 3 (2021)年度 文化庁委託「生活者としての外国人」のための日本語教育事業地域日本語教育実践プログラム(C)

参考 9 : 中日新聞「就職に向け ブラジル人学校生が企業と交流会」(2021 年 1 月 22 日)

<https://www.chunichi.co.jp/article/189267>

以上

第2回運営委員会<議事録>

日時：2021年11月12日(金)13:30～16:00

場所：Zoom

出席：西クレオニセ、ヒガシ・リカ、山家ヤスエ、藤本真理、吉田絵里菜、堀永乃、鈴木崇夫、村山グスタボ秀夫、丸山宗祐、土井佳彦（計10名）

議題

1. 事業進捗報告
2. 質疑応答・意見交換
3. 今後の予定

1. 事業進捗報告

*別紙「中間報告」及び「別紙1～3」参照

2. 質疑応答・意見交換

- ブラジル学校で日本語教育を担当する先生方の雇用形態（常勤／非常勤）や給与等待遇によっても、スキルアップへの参加意欲などが変わってくる可能性もある。
- 教師への謝金については、三井物産等による外部の助成金等の活用も有効。
- 愛知県内の学校に限っては、(公財)愛知県国際交流協会の「日本語学習支援基金」を活用している学校もある。
- 本事業においてブラジル学校で講義を担当し、生徒と話をしてみて、ブラジル学校の存在意義の大きさや役割の重要性を実感した。
- 豊田市役所には複数のブラジル人職員がいるので、今後それぞれの立場で話をしてもらうこともできるし、話す側にとっても気づきがあると思う。
- コロナ禍でもここまで事業を進めてきた日本語教師はじめ、関係者の頑張りを誉めたい。
- アンケートで、日本語教育のカリキュラムが「ある」と答えたところは、どんなカリキュラムになっているのか、また「ない」と答えたところは、どのように授業を実施しているのかが気になるので、今後のヒアリング等でわかるとよい。
- アンケートで、日本語教育の研修内容については、教え方や教材選びなどの

テクニック的なところに多くの回答が集まっているが、別の設問では「保護者への理解が必要」といった意見もあるので、そういったところも含めて考えていけるとよい。

- 週に数時間の日本語教育だけでは、日本語力の向上はあまり期待できない。そうした中で、どのようなレベルを目指すのかを考え、カリキュラム作成をしていかなければいけない。
- ネクターへの支援を中心としつつも、私たちが今後どう各地のブラジル学校にアプローチできるのか・するのかも考えていきたい。
- 日本語教師向けの研修会については、既存の担当者だけでなく、関心を持っている人にも広げて、実際にサポートができる人が増えていくとよい。
- ネクターは日本語とポルトガル語の両方が学べるブラジル学校として、子どもたちに教育機会を提供していく存在でありたい。
- 本事業を通じて、子どもたちの日本語学習意欲が向上しているのが何よりの成果。ネクターの教師陣だけでは難しいこと。今後も継続してもらいたい。
- 子どもたちの置かれている状況を理解し、寄り添った支援ができる教師陣の育成が重要。
- ブラジル学校を卒業した後、日本の大学にも進学できる力がつくような教育をしていきたい。
- 日本人と日本語を使うことへの恐怖感や拒否感がかなり低下したように思う。大学訪問で、知らない日本人学生に日本語で会話する姿に驚いた。
- 日本語教師向け研修の一環として、学校見学の機会もあるとよい。
- 各ブラジル学校の紹介動画の作成もできるとよい。

参考1. (公財)愛知県国際交流協会の「日本語学習支援基金」

<http://www2.aia.pref.aichi.jp/kyosei/j/kikin/index.html>

3. 今後の予定

1) 年度内

- ・取組1 授業は残り1回(11/15) + 名古屋外国語大学訪問を検討
- ・取組2 教案・教材の整理→ポルトガル語翻訳
- ・取組3 日程調整のうえ、オンライン開催予定

- ・取組4 日程調整のうえ、受講者募集→年明け開催予定
- ・取組5 アンケート調査結果詳細まとめ→関係者に共有

2) 来年度

- ・文化庁事業（プログラムC）に申請予定
- ・いずれは、愛知県による「地域日本語教育における総合的な体制づくり事業」（文化庁補助事業）の一環として行えるように、豊田市から愛知県に間接補助を申請してもらえたらと考えている。
- ・SONHO プロジェクトの継続可否については未定（検討中）

以上

第3回運営委員会<議事録>

日時：2022年3月16日(水)10:00～12:30

場所：Zoom

出席：西クレオニセ、ヒガシ・リカ、山家ヤスエ、藤本真理、吉田絵里菜、堀永乃、鈴木崇夫、村山グスタボ秀夫、丸山宗祐、土井佳彦（計10名）

議題

1. 事業進捗報告
2. 質疑応答・意見交換
3. 今後の予定

1. 事業進捗報告

*別紙「中間報告」参照

2. 質疑応答・意見交換

- 昨年12月に、豊田市内のブラジル学校「ピントンド・オ・セッチ」が閉校となり、市内にはEAS豊田校とネクターの2校になった。本事業での成果等を今後EASにも共有していけたらと思っている。
- ブラジル学校の教育の質を全体的に上げていくには、日本での生活・就労の安定化や、ブラジル政府の関わり方など、大きな枠組みでの変化も必要。全国のブラジル人子弟教育に携わる人々、特に在日ブラジル人コミュニティから政府等への働きかけがあるといい。
- 今回の愛知県での取り組みを、他地域にも展開していけるといい。
- 日本語教育だけでなく、キャリア支援についての充実として、外部の支援団体や企業等とのつながりがもてるといい。
- 運営委員のメンバーで、企業とのつながりがある人もいるので、そこからインターンシップや職業体験などの受け入れを相談してみてもいい。
- 本事業は、ネクター及びブラジル学校のニーズに即したものであったので、学校側として非常によい取り組みをしていただけたと感じている。
- 日本語の授業や大学訪問など、教室での変化が、学生たちに日本語学習への新たな刺激を与えていることに気づかされた。また、各先生との関わりから他の先生たちの今までの活動などにも刺激を受けた。

- 残念ながら、10代の子どもたちは、未熟であったり、感情的な問題があったりして、せっかく与えられたチャンスに気づかないことがあるが、辛抱強く与え続けていくことが重要。
- 日本語教育実態調査を通じて、ブラジル学校で日本語を教えること、その改善、あるいは力や経験、教材を加えることに全く関心がない教育システムがあることに同業者としてショックを受けた。生徒の将来のために、これがどれほど重要であるかを理解してほしいと思う。
- 生徒たちに夢を与え、人生に新しい意味を与えることは、私たち教育者の役割の一部であり、このようなプロジェクトは、私たちがこの道を歩んでいることを再認識させ、心を温かくしてくれる。
- 今後もしっかりと日本語教育に取り組んでいき、「ブラジル学校は日本語教育もちゃんとやっている」という認識を世に広めていきたい。

参考1. フィッシュ・ファミリー財団「JWLI スカラシップ」

<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000010.000062030.html>

参考2. 三井物産「在日ブラジル人コミュニティへの支援」

<https://www.mitsui.com/jp/ja/sustainability/contribution/community/index.html>

3. 今後の予定

1) 年度内

- ・3月18日が本事業の締日になるので、それまでに支払い等すべて完了予定

2) 来年度

- ・2月10日に来年度の文化庁事業に申請済み
- ・年度内に採否連絡があり、採択されれば5月下旬以降の開始となる予定

以上

第1回教材・カリキュラム開発会議＜議事録＞

日時：2021年7月3日(土)10:00～12:30

場所：地域資源長屋なかむら 会議室

出席：神谷樹、松村月音、山家ヤスエ、土井佳彦（計4名）

議題

1. コース概要とカリキュラムの方針
2. カリキュラム
3. 教材・教案
4. 今後のタスク・スケジュール

1. コース概要とカリキュラムの方針

1) 目標

エスコラ・ネクターをモデル校とし、国内のブラジル学校において、日常生活及びキャリア教育に資する日本語コミュニケーション力の向上のための教材及びカリキュラム等を開発すること。

2) 方針

ネクターの日本語教育全体としては、日本語能力試験対策や大学・専門学校への進学を目的とした受験対策を行うこともあるが、それらは文化庁委託事業で行うものとは分けて実施し、文化庁事業では申請内容にある「日常生活」と「キャリア」の2つの観点から、上記の目標の達成に向けて、扱う内容等を検討する。

2) 内容

- ① 日本語教育カリキュラムの開発
- ② ①に沿った日本語指導に必要な日本語教材の開発
- ③ ①に沿った日本語指導に必要な教案の作成

3) 時間数

計30時間分（1回1.5時間×20回分）

4) 期間

令和3(2021)年7月1日～令和4(2022)3月10日(教材・教案完成予定)

5) 役割分担

カリキュラム作成：神谷、松村、山家、土井

教材・教案作成：神谷、松村

ポルトガル語翻訳：山家

教材・教案まとめ：土井

2. カリキュラム

【第1段階：日常生活編】

- ①自身のこと(自己紹介、経歴等)を他者に説明したり、他者のそれを理解することができるようになる
- ②自身の日常生活(1日の流れ、最近の出来事等)を表現したり、他者のそれを理解することができるようになる
- ③自身の身近なこと(家族、友達、尊敬する人等)を他者に説明したり、他者のそれを理解することができるようになる

【第2段階：キャリア編】

- ①日本において、卒業後の選択肢(進学、就労等)に関する情報を収集・整理することができるようになる
- ②卒業後のキャリアについて考え、日本語で他者に説明したり、他者のそれを理解することができるようになる
- ③卒業後のキャリアについて日本語で発表することができるようになる

- 上記2つの段階において、各①～③の「できるようになること」が達成できるよう、全20回(30時間)分の内容等を検討する。
- 「日常生活」と「キャリア」の配分は講師間で調整。
- ゲスト講師については、予算の範囲内(述べ5～8人程度)で調整。
- 必要な事項：実施日時、担当者名、テーマ、学習項目
- 日本語教育以外の授業(特に課外授業や学校行事等)との連携も検討。

(参考)

1. 浜松国際交流協会「企業内日本語教室カリキュラム開発報告書」(2009) 及び「外国にルーツを持つ青少年のキャリア支援事業報告書」(2017)

<http://www.hi-hice.jp/publish/bulletin.html>

2. 豊橋市立豊橋高等学校「外国人生徒キャリア教育事業」

http://www.highschool.toyohashi.ed.jp/y_gaisyu24.html

3. 教材・教案

1) 教材として使用可能なものの種類

- ①自作教材 (word, excel, ppt 等)、②レアリア、③市販教材、④ウェブ教材 (動画、e-learning 等) *いずれも、著作権に注意

教材開発も事業の一環なので、市販教材がメインにならないようにすること。

著作権への抵触が心配な場合は、事前に使用したい物の制作者に問い合わせ確認すること。

次年度以降の教師が利用しやすいよう、できるだけ無料で使える物を使用すること。

2) 教案

- JICA の国際開発教育の教案フォームをベースに、SONHO プロジェクトとしてのフォームを作成し、教案を作成する (使い勝手が悪ければ適宜修正を加え、最終的にプロジェクト終了時に統一させる)。
- 完成した教案は、ポルトガル語に翻訳する。
- 教材・教案は、SNS (SLACK、LINE) で共有し、相互に情報提供やコメントを加える。

(参考)

1. 三重県「外国人の子どもに向けたキャリアガイド」

<https://www.pref.mie.lg.jp/TABUNKA/HP/49135032696.htm>

2. 愛知県「外国につながる子どもたちの進路開拓・進路応援ガイドブック」

<https://www.pref.aichi.jp/soshiki/tabunka/shinro-gidebook.html>

3. 文化庁「つながるひろがる にほんごでのくらし」

<https://tsunagarujp.bunka.go.jp/>

4. 「かわいいフリー素材集 いらすとや」*1 教材に20点まで無料

<https://www.irasutoya.com/>

5. 写真のフリー素材「photo AC」*要事前登録(無料)

<https://www.photo-ac.com/>

6. 国際交流基金「みんなの教材サイト」*要事前登録(無料)

<https://minnanokyozai.jp/kyozai/top/ja/render.do>

7. 国際交流基金「いろどり 生活の日本語」

<https://www.irodoti.jp/go.jp/>

4. 今後のタスク・スケジュール等

1) 情報共有ツール

本プロジェクト用の Slack と LINE グループの作成(担当: 松村)

2) カリキュラム案作成

➤ カリキュラムのフォーマットを作成(担当: 土井)

→ 担当部分の項目を入力(担当: 神谷、松村)

➤ 第2回教材・カリキュラム開発会議時に検討

3) 第2回教材・カリキュラム開発会議(担当: 土井)

7月中旬に Zoom で開催(後日、日程調整)

以上

第2回教材・カリキュラム開発会議＜議事録＞

日時：2021年7月22日(木)15:00～17:00

場所：猿投台交流館 2階小会議室

出席：神谷樹、松村月音、山家ヤスエ、土井佳彦（計4名）

議題

1. カリキュラム
2. 今後のタスク・スケジュール

1. カリキュラム

- 当初、「日常生活」を終えた後に「キャリア教育」へと進める予定であったが、学習者がある程度日本語力があることから、「日常生活」と「キャリア」を、曜日を変えて並行して進めることとする。
- 1名、他の学習者に比べて日本語力が低い人がいるため、授業を進める中で働きかけを工夫する必要がある。工夫の仕方は教案にも記載しておく。
- 授業の中で何かを作成する際には、授業内での発表にとどまらず、地域の日本人にも紹介する機会を設けることができるとよい。
- 「日常生活」では最低限、日常場面で初めて会った人に自分自身のことを紹介できる、聞かれたことに答えられるように。「キャリア」では、進学・就職時の面接の際に、自己PRや将来の夢なども語れるように。
- No.8, 9は「キャリア」にカテゴリ変更。
- 「テーマ」はもう少し具体的にする。
- 日本福祉大学の授業参加時には、自己紹介や学校紹介、タウンマップの紹介などができるように準備しておく。
- ゲスト講義の回は公開授業にしてネクター在籍者以外にも参加機会を提供してもよい。8月中の平日か、9月以降の土日かでゲストとも調整。会場は保見交流館または猿投台交流館を借りる。

2. 今後のタスク・スケジュール等

1) カリキュラム案への意見募集

- ～7/25(日) 第1案修正→Slackにアップ
- 7/26(月)第2案を運営委員に送付し、意見募集（8/1まで）
- 8/2(月)確定

令和3(2021)年度 文化庁委託「生活者としての外国人」のための日本語教育事業地域日本語教育実践プログラム(C)

2) 講師依頼

村山さんとの調整：山家

丸山さんとの調整：土井

3) 第3回教材・カリキュラム開発会議

2021年8月3日(火)18:00～19:00@Zoom

以上

第3回教材・カリキュラム開発会議＜議事録＞

日時：2021年8月3日(木)18:00～19:00

場所：Zoom

出席：神谷樹、松村月音、山家ヤスエ、土井佳彦（計4名）

議題

1. カリキュラム
2. 講師との調整
3. 今後のタスク・スケジュール

1. カリキュラム

- 7月26日にカリキュラム第2案を運営委員に送付し、8月1日まで意見募集を行なったところ、特に修正案等は出されなかったため、このまま進めていくこととした。
- 愛知県に緊急事態宣言が出た場合、オンライン（Zoom）授業に切り替える。アカウントはネクターで用意。ヒガシ先生が立ち上げて、操作は各講師が行う。
- オンライン会議用の集音マイクがあるとよい。→文化庁に確認。

2. 講師との調整

村山さん、ヨシナガさんとの調整：山家→神谷

丸山さんとの調整：松村

3. 教材・教案の共有

随時、Googleドライブにアップして、Slackで共有

4. 今後のタスク・スケジュール等

第4回教材・カリキュラム開発会議

2021年10月6日(水)16:00～

以上

第4回教材・カリキュラム開発会議＜議事録＞

日時：2021年8月22日(日)13:00～14:00

場所：Zoom

出席：神谷樹、松村月音、山家ヤスエ、土井佳彦（計4名）

議題

1. 緊急事態宣言下での対応
2. 講師との調整
3. 今後のタスク・スケジュール

1. 緊急事態宣言下での対応

1) ネクターの方針

- 緊急事態宣言下でも、教育機関は自粛対象外となっているので、コロナ感染対策をしっかりとしながら活動を継続させる予定。
- 宣言下に関わらず、学校内や地域内で陽性者やクラスターが発生した場合は、中止せざるを得なくなる。

2) 日本語教師の対応

神谷：宣言下では、JICA 職員として学校に赴くことができなくなる。自宅等からのオンライン授業は可能。

松村：宣言下でも、大府市教育委員会からは、学校での授業も可能。場合によってはオンライン対応も可能。

2. 講師との調整

1) 8/24、村山さん

宣言前になりそうなので、予定通り実施。

→LINE グループで土井から実施方法を確認。

→株式会社 Man to Man (Dia

2) 9/2、丸山さん・奥原さん

宣言下になりそうなので、その場合の対応を検討。

→松村さんから丸山さんに相談。

3) 9/16、村山さん

日程も未調整。

→別 LINE グループで松村さんから村山さんに相談。

3. 今後のタスク・スケジュール等

- 8/23(月)10:20～→8/24(火)12:20～に変更
- 8/30(月) 10:20～→8/31(火) 12:20～に変更
- 10/18 予定、日本福祉大学の授業参加
→10/25, 11/8, 15 であれば変更可

以上

第5回教材・カリキュラム開発会議<議事録>

日時：2021年9月23日(木)16:00～17:00

場所：Zoom

出席：松村月音、山家ヤスエ、土井佳彦（計3名）

議題

1. 大学訪問
2. 今後のタスク・スケジュール

1. 大学訪問

1) 日本福祉大学 東海キャンパス

日時：10/18(月)14:20～15:50 予定

大学生：50～70名（日系ブラジル人女子学生1名）

最寄駅：名鉄「太田川」駅下車、徒歩5分

<https://www.n-fukushi.ac.jp/about/campus/campus-map/tokai/index.html>

2) 名古屋外国語大学 名駅キャンパス

日時：10/26以降の毎週火曜日、16:40～18:10

大学生：20～30名（日系ブラジル人男子学生1名）

最寄駅：名鉄「栄生（さこう）」駅下車、徒歩10分

<https://www.nufs.ac.jp/outline/meiekic/meieki-access/>

2. 今後のタスク・スケジュール等

①保護者の許可を取る【山家】

➤ 電車賃は全額、大学からの謝金から支払う。大学は感染防止対策OK

②生徒本人の意向を聞く【山家】

➤ 大学に行ってみたいか、行ったらどんなことをしてみたいか等

③希望の方法を確認【山家】

➤ 基本は対面だが、難しければオンラインも可。

④内容を考える【神谷・松村】

➤ 生徒による自己紹介（一人1,2分ぐらい）は必須。その他、ネクターの紹介（神谷・松村・山家のいずれか）、生徒が簡単なポルトガル語を教えるなど。時間は30～90分の間で調整可能（30分で終われば、土井が他の講義をするなど検討する）

以上

第1回シンポジウム企画等会議<議事録>

日時：2022年3月8日(火)19:00～21:00

場所：Zoom

出席：加古麻理江、鈴木崇夫、拝野寿美子、古川カチア、堀永乃、山家ヤスエ
土井佳彦（計7名）

議題

1. プログラム（案）
2. パネルディスカッションのトピックス
3. 当日の参加方法
4. 今後のタスク・スケジュール等

1. プログラム（案）

・別紙参照

→変更なし

2. パネルディスカッションのトピックス

- ① 子どもたちはどんな夢を描いているの？
- ② ブラジル学校で必要な日本語教育って、どんなもの？
- ③ 子どもたちのキャリア形成について、日本語教師の役割は？
- ④ 日本語教師自身のキャリアはどうなっている？（雇用・待遇）
- ⑤ 日本社会におけるブラジル学校の存在意義・価値とは？

上記5つに加えて、その場でお互いに自由に質疑応答。

参加者からの質問は、司会が適宜とりあげる。

3. 当日の参加方法

- ・事務局（土井・加古）は貸し会議室から配信
- ・その他登壇者は自宅等から参加

4. 今後のタスク・スケジュール等

- ・スケジュール詳細等を3/11までに作成・共有

以上

第2回シンポジウム企画会議＜議事録＞

日時：2022年3月9日(水)21:00～22:00

場所：Zoom

出席：加古麻理江、松村月音、土井佳彦（計3名）

議題

1. プログラム（案）
2. 日本語教育実践報告
3. 当日の参加方法
4. 今後のタスク・スケジュール等

1. プログラム（案）

・別紙参照

→変更なし

2. 日本語教育実践報告

- ・はじめに、事業全体の概要を土井から報告
- ・続いて、日本語教育について松村から報告
- ・途中、生徒による「私の夢」動画を投影
- ・最後に、担当指導者として感想・コメントを述べる
- ・参加者からの質問については、適宜司会が取り上げる

3. 当日の参加方法

- ・事務局（土井・加古）は貸し会議室から配信
- ・その他登壇者は自宅等から参加

4. 今後のタスク・スケジュール等

- ・3/11までに、当日の発表資料作成・共有

以上

第3回シンポジウム企画等会議<議事録>

日時：2022年3月13日(日)12:00～13:00

場所：Zoom

出席：鈴木崇夫、拝野寿美子、古川カチア、堀永乃、山家ヤスエ、松村月音、
土井佳彦（計7名）

議題

1. シンポジウムのふりかえり
2. 今後のタスク・スケジュール

1. シンポジウムのふりかえり

・「工場で働きたい」という子どもは、どのような工場だと思っているのか。インフォメーションのギャップを埋める。職業感のギャップを埋めるなど、日本語学習を通して埋めることができればいいと考えている。夢を押し付けるだけではない。

・キャリアコンサルタントの資格を持っているわけではないが、キャリアを考えることと日本語を考えることをどのようにして日本語を教えればいいのかを考えていた。プロセスなど、日本語でどのような表現すればいいのか。今後の課題として考えていきたい。

・日本の価値観を押し付けていいのかと思っている。日本語の価値などを知ってほしいと思うが、日本にいる子が多いがポルトガル語やその子のルーツを大切にしたいと思う面もある。ルーツやブラジルについて知らない教員もあり、少し残念だと思っている。そのルーツがあつての日本語を学んでほしいと思う。

・日本になじんでいない子などもあり、ずれているように思った。ブラジル学校だと未来のことを考えているが、日本語を学びたいのか、学ぶことをどのようにしたいのか。日本を出たいと思っているが、他に行く場所がない。自分自身でどのようにしていけばいいのかと考える必要がある。

・今日の議論ができてよかった。ブラジル学校では、日本語教育が欠けていた。ブラジルのルーツを大切にしていた。だが、今後は日本語やブラジルのルーツを大切にしていこうとすることをどのようにしていけばいいのかを考えていかなければ

ならない。キャリアってなんだろう？と、今後も考えていく。日本語はなりたい自分になるために必要不可欠な力である。

2. 今後のタスク・スケジュール等

- ・ 近日中に録画を編集し、YouTube にアップ（3/27 まで配信）
- ・ アンケート集計結果をパネリストに共有
- ・ 次年度も同様の議論の場をもてるよう検討

以上

実態調査に関する事前ヒアリング（愛知県）＜記録＞

日時：2021年7月2日(金)10:00～11:00

場所：Zoom

出席：舘洞晋也、中奥朋子、伊原ダニエリ（以上、愛知県多文化共生推進室）
松村月音、山家ヤスエ、土井佳彦（計6名）

議題：

1. 事前質問への回答
2. 今後のタスク・スケジュール等

1. 事前質問への回答

質問1. 2020年度の調査報告を拝見する限りでは、日本語教育に関して調査された項目は、1週間あたりの日本語学習時間のみのようですが、それ以外で下記のような点について把握されていることがあれば教えてください。

①日本語教育を担当している先生の国籍

→「日本」が多い。

②日本語教育を担当している先生の母語

→「日本語」が多い。

③日本語教育を担当している先生の日本語教育資格の有無

→学校によって基準が異なる。初等教育であればボランティアの先生がやっていて、中等教育課程があるところは有資格者を学校が雇って授業をしてもらっている。

④日本語教育のカリキュラムの有無とその内容

→学校によりさまざまで、日本語教師任せのところも多い。

⑤日本語教育で使用されている教材

→『ひろこさんの たのしい にほんご』や『みんなの日本語』、また公文で使われている教材などが使われている。

⑥日本語教育の到達目標（卒業時・各学年終了時）

→日本語教育自体が義務ではなく、同じ学年・クラスにおいても生徒一人ひとりの日本語レベルが異なるため、一律に設定してはいない。

⑦日本語教育を担当している先生の研修機会の有無

→すべての学校で研修機会があるわけではない。

⑧新たに日本語教育を担当する先生を採用する際の条件・基準等

→学校によってさまざま。

<補足>

- ・上記の回答は、基本的にブラジル人学校の運営者等への聞き取りから得た情報で、日本人日本語教師が同席していたのは2,3校のみ。
- ・日本語教師が日葡バイリンガルかどうか、子どもたちの日本語使用や習得度、教え方など、日本語学習環境に違いがあるようだ。

質問2. 2020年度の調査報告 p.26「(9) 地域との連携」の中で、「近隣の学校や支援団体(NPO 団体等)との関わりがあまりないようであった」とありますが、その理由にはどのようなものがありますでしょうか。また反対に、関わりをもっている学校は、具体的にどのようにして、どのような連携をとられていらっしゃるのでしょうか。

→今年度はコロナの影響でできないことが多かったようだが、コロナ以前はいろいろ関わりがあったようだ。地域連携の度合いは二極化している。近隣の学校行事に参加しているところもあったが、ブラジル人学校から関わりを持とうとすることはほとんどなく(体力・余裕がない)、声がかかれば応じる程度。警察や消防による講話(安全・防災)は多くの学校でされているが、NPO や自治体との連携はほとんどないようだ。多文化共生推進室としては昨年度、中等部の在籍生徒数が多い上位4校に対し、(株) Man to Man にキャリア教育の講話をしてもらった。4校に絞ったのは予算上の理由。

問3. ブラジル人学校の生徒の6割強が中等教育課程卒業後に就職をしている状況から、愛知県として、ブラジル人学校在籍者に対して卒業時に期待する(望ましいと思われる)日本語能力レベルや、そこに到達するための学習環境の改善(授業時間数、教師の資質・能力、カリキュラム等)はどのようなものでしょうか。

→今のところ、ない。私立学校には建学の精神があり、特色を持った教育を行われている。各学校で実情に合わせた日本語教育を行われているので、県として示すべきことではないと考える。また、進学先や就職先が求めているレベルも把握していないので、目標を示すことは困難。大学進学前に一度就職して学費を貯める人もいると思うので、日本語レベルを示していないから進学ができていないとも限らないのでは。

問4. 愛知県では現在、文化庁補助事業「地域日本語教育の総合的な体制づくり推進事業」に取り組まれています。この事業および他の多文化共生関連施策において、今後、ブラジル人学校への日本語教育に関する支援等を行われる予定はありますでしょうか(愛知県国際交流協会による「日本語学習支援基金」の継続検討も含めて)。

→基金には県も関わっている。来年度以降については検討中。文化庁事業では、市町が域内のブラジル人学校での日本語教育を含めて申請すれば、県からの補助も可能になるが、今のところ申請はない。アドバイザー派遣では対象になる。

2. 今後のタスク・スケジュール等

- ・ 本日の回答を参考に、アンケート調査票を作成。
- ・ 8～9月に全国のブラジル学校を対象に調査実施。
- ・ 結果を取りまとめ、年度末に共有。

以上

第1回ブラジル学校における日本語教育実態調査検討会議＜議事録＞

日時：2021年7月22日(木)10:00～12:00

場所：猿投台交流館 2F 小会議室

出席：藤本真理、山家ヤスエ、土井佳彦（計3名）

議題

1. 調査目的
2. 調査対象
3. 調査方法
4. 調査期間
5. 調査項目
6. 今後のタスク・スケジュール等

1. 調査目的

日本国内のブラジル学校(約40校)において、どのような日本語教育が行われているかを調査し、現状と課題を明らかにし、今後の改善に資する基礎資料を作成すること。

2. 調査対象

送付先：日本国内の中等課程（高校1～3年）をもつブラジル学校の学校長宛

<http://toquio.itamaraty.gov.br/pt-br/educacao.xml#homologadas>

回答者：学校長、教務責任者、日本語教師のいずれかを想定

3. 調査方法

1) WEB アンケート

- ・ Google フォームを使用（日本語とポルトガル語の2言語）

2) ヒアリング

- ① 県内及び近隣の学校については可能であれば訪問調査を行う
- ② 県外の学校については Zoom で行う

4. 調査期間

2021年8月2日(月)～8月22日(日)

5. 調査項目

1) アンケート項目

別紙参照

2) ヒアリング項目

次回会議で検討

6. 今後のタスク・スケジュール等

1) 調査概要案への意見募集

本事業の運営委員及び愛知県多文化共生推進室を対象に、調査概要案への意見募集を行い、回答を検討の上、反映させる。

2) 調査票のポルトガル語翻訳・Google フォームへの実装

翻訳：山家、東

実装：土井

3) 在名古屋ブラジル総領事館への協力依頼

アポ取り：山家

詳細説明：土井

4) 第2回実態調査会議

アンケートが確定した段階で日程調整

以上

第2回ブラジル学校における日本語教育実態調査検討会議＜議事録＞

日時：2021年10月2日(土)17:00～18:00

場所：Zoom

出席：藤本真理、山家ヤスエ（終了間際の参加）、土井佳彦（計3名）

議題

1. アンケート調査回答状況確認
2. アンケート調査回答内容確認
3. アンケート調査結果から考える人材育成メニュー
4. 今後のタスク・スケジュール等

1. アンケート調査回答状況確認

調査期間：2021年8月2日～8月22日（第1回締切）

回答数：6件

→回答数を増やすため、期間を9月10日まで延長し、個別に電話・メール連絡する

調査期間：2021年8月23日～9月10日（第2回締切）

回答数：12件

→今後も追加で回答があれば受け付ける（年内を最終期限とする）

2. アンケート調査回答内容確認

・現時点は、すべての学校で日本語教育が行われているが、日本語教師への研修機会はない様子

・カリキュラム等、詳細については直接訪問やウェブ会議等でのヒアリングが必要

・9月10日時点で回収できたアンケートから、ヒアリング先を検討

3. アンケート調査結果から考える人材育成メニュー

・9月10日時点で回収できたアンケートから検討

・回答者の多くが県外であれば、オンラインでの研修を中心に企画

4. 今後のタスク・スケジュール等

- ・再度、電話等でアンケート回答依頼【山家他、ネクタースタッフ】
- ・回収分をまとめて日本語訳【山家】
- ・調査結果報告書を日本語とポルトガル語で作成【土井】

以上

第1回コーディネーター会議＜議事録＞

日時：2021 年 12 月 20 日(月)9:00～11:00

方法：Zoom

出席：山家ヤスエ、土井佳彦

議題：

1. 2021 年度事業
2. 2022 年度以降

1. 2021 年度事業

1) 取組 1：日本語教室

- 11 月 17 日終了
- 実施報告作成【土井】
- 年内は「SONHO プロジェクト」として継続中
- 年明け 1/17 から年度内は引き継ぎ作業の予定 (JICA は日本語教育未経験者を想定)

2) 取組 2：教材・カリキュラム開発

- 12 月 24 日に日本語指導者とコーディネーターで検討会議
- 文化庁事業 20 回を取り出して整理【土井】
- 教案を整えて、日本語講師に確認【土井】
- 完成版をポルトガル語に翻訳【山家】

3) 取組 3：シンポジウム

- 3 月に Zoom ウェビナーで同時通訳付ができればよい
- 年末年始に企画案作成【土井】
- パネリスト候補：在名古屋ブラジル副領事、全国ブラジル学校協議会

4) 取組 4：日本語指導者研修

- 年末年始で企画案作成【土井】
- オンライン開催

5) 取組 5：実態調査

- 年末年始で集計・分析し、日本語版・ポルトガル語版をまとめる【土井】
- アンケート回答校を対象に、年明けに追加インタビュー又は訪問【山家・土井・松村】

- ポルトガル語版チェック【山家】

2. 2022 年度以降

1) 日本語教室

- 継続：高校生向けキャリア教育
- 新規：小中学生向け生活日本語（課外授業として各地訪問）

2) 文化祭

- 日本語習得や日本人との交流の成果として開催（一般公開）

3) 日本語指導者研修

- 2021 年度の結果を踏まえて検討

4) 追加調査

- 必要に応じて検討

以上

第2回コーディネーター会議<議事録>

日時：2022年1月10日(月)10:00～12:00

方法：Zoom

出席：山家ヤスエ、土井佳彦

議題：

1. 取組4 日本指導者研修について
2. 取組3 シンポジウムについて
3. その他

1. 取組4 日本指導者研修について

- コロナ第6波の影響と、講師候補者と対象者の都合・希望から考えると、対面開催は難しそうだ。
→全面オンラインに切り替えて日程調整等を行う。それが難しい場合は、オンデマンド（YouTube 配信）も検討。
- 残りの期間からして全10回も多いので、研修内容を再検討する必要あり。
- 今年度は対象を絞って、必要最低限のものにし、来年度以降にニーズに応じて追加していきたい。

2. 取組3 シンポジウムについて

- これもコロナの影響と県外からの参加希望者への対応からして、完全オンラインでの開催がよさそう。
- 内容は変更ないが、同時通訳の人材確保とコスト負担が難しそう。
→ブラジル人コミュニティに相談。難しい場合は日本語のみとする。
- 生徒による発表は、事前に動画撮影したものを流すようにする。
- 内々での自己満足的な報告の場にならないように、パネルディスカッションには本事業で関わっていない人にも登壇してもらい、意見を求めたい。
→他のブラジル学校または研究者等を探してみる。

3. その他

- 2月から某財団からの助成金を得て、大学進学に向けた指導に注力することになった。JICAにも引き続き協力を得られそう。急ぎ、コーディネーター人材を確保する必要がある。
→関係団体にあたってみる。

以上

第3回コーディネーター会議＜議事録＞

日時：2022年2月21日(月)13:00～15:00

方法：Zoom

出席：山家ヤスエ、土井佳彦

議題：

1. 取組4 日本指導者研修について
2. 取組3 シンポジウムについて
3. その他

1. 取組4 日本指導者研修について

- 協力者にコロナ感染・濃厚接触者が出たため、オンラインからオンデマンドに切り替えて実施したい。
- 研修内容もさらに絞って、言語も基本は日本語（必要に応じて資料はポルトガル語訳付き）で、以下のものを作成したい。
 - ・ブラジル学校の現状と課題（日本語／ポルトガル語）
 - ・日本語の基本的な教え方＋教材選び（日本語）
 - ・日本語能力試験対策のポイント（日本語）
- 録画はZoomを使用。編集は土井が担当。YouTubeにアップして共有。
- 受講者にはGoogleフォームでアンケートに回答してもらう。
- 作成は本事業期間内（～3/18）だが、その後も視聴は可能。

2. 取組3 シンポジウムについて

- 3/13(日)10～12時を第一候補に登壇者等と調整する。
- 方法はZoomウェビナーを使用。YouTubeでもストリーミング配信する。
- 内容は当初予定に変更なし。
- パネルディスカッションに、HIRO学園の日本語教育担当者を招聘。研究者は探し中。
- 3/1には広報開始できるよう進める。

3. その他

- 2/10に来年度の申請書を提出。結果は来月下旬頃だろうが、事業スタートは6月ぐらいだろう。それまでは別の助成金と自己財源で継続実施。

以上